

重要 新型コロナウイルスワクチン接種の共通理解

一般社団法人日本感染症学会ワクチン委員会の「COVID-19 ワクチンに関する提言(第3版)」には、ワクチンは他の薬剤と同様にゼロリスクではないこと、病気を予防するという利益と副反応のリスクを正しく評価して、接種するかどうかを自分で判断することが必要であることが記されています。

ワクチンの有効性について、臨床試験で90%以上の発症予防効果が報告されていること、発症を抑制するだけでなく、重症化を防ぐ効果も期待されていること、そして私たち一人一人がワクチン接種の安全性、有効性について理解し、接種するかどうかを自分で判断することが重要です。

①新型コロナウイルスワクチンにはメリットとデメリットがあります。

表1 ワクチンのメリット・デメリット

	メリット	デメリット
ワクチン接種した 個人	①重症化しにくくなる ②発症しにくくなる ③感染しにくくなる	①短期的な副反応がある ・注射部位疼痛・疲労・発熱・頭痛等 ・アレルギー反応(アナフィラキシー) ②将来的に、未知の副反応が見つかる可能性がゼロではない
社会 (経済・医療・教育)	①パンデミックが終息に向かう ・ただし、集団免疫の達成には70%のワクチン接種が必要 ②重症患者が減少し、医療がひっ迫しない ③社会・経済活動が復活に向かう ④対面授業が増え、通常の大学生活に近づく可能性	①ワクチンパスポートのように、ワクチン接種した人だけが行動範囲が広がる不公平が起こる可能性 ②貧しい国と豊かな国のワクチン供給の不平等

②新型コロナウイルスのワクチン接種方法には、以下の選択肢があります。

- ・住民登録をしている自治体での接種
- ・大規模接種会場での接種
- ・団体・企業等での職域接種

③ワクチン接種方法や時期により使用されるワクチンが異なります。

- ・ファイザー (mRNA ワクチン)
- ・モデルナ (mRNA ワクチン)

④ワクチン接種前後に注意する点があります。

表2ワクチン接種前後の注意点

	注意点
接種前	<p>ワクチン接種ができない人</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発熱(37.5℃以上)している人 ● 重篤な急性疾患にかかっている人 ● 1回目にアナフィラキシー反応が出た人 ● ワクチンの成分に対して、重篤なアレルギー反応があった人 など
接種中・直後	<ul style="list-style-type: none"> ● 肩までしっかりめくれるような服装にする ● 接種部位はもまなくてよい ● 抗血小板薬・抗凝固薬(血液をサラサラにする薬)を飲んでいる人は、注射部位を2分間圧迫する ● 接種後は安静にして経過をみる <ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギーのない人は、接種会場で15分以上座って様子をみる ・ アレルギーのある人や、アナフィラキシーの既往がある人は、接種会場で30分以上座って様子をみる
接種後	<ul style="list-style-type: none"> ● 入浴OK、ただし接種部位をこすらない ● 副反応の症状(接種部位の痛み、発熱、だるさ、悪寒、筋肉痛、関節痛、吐き気)は、1～3 日後には自然に治る ● 副反応とはいええない症状(咳、胸痛、息苦しさなど)があり辛い時は、医療機関に相談する ● 他のワクチンを接種する場合は、2回目のコロナウイルスワクチンを接種した後、2週間以上の間隔をあける

⑤ワクチン接種について、かかりつけ医と相談が必要な人がいます。

- ・ハチ、薬、その他のワクチンでアレルギー(アナフィラキシー)を起こしたことがある人
- ・エピペンを処方されている人
- ・重度の喘息と診断されている人
- ・基礎疾患があり通院している人
- ・コロナウイルスに感染したことがある人

⑥ワクチン接種について、正しい知識を得ましょう。

■参考

- [厚生労働省 新型コロナワクチンQ&A](#)
- [厚生労働省 新型コロナワクチンについて](#)
- [一般社団法人日本感染症学会「COVID-19 ワクチンに関する提言」](#)